

学 校 名	山形市立山寺小中学校	校 長	武田 裕子
	山形市大字山寺1650 023-695-2044	研究主任	(小) 神保幸恵 (中) 後藤 岬
研究 主題	自ら学び方を選択し、学びをつなぐ児童生徒の育成 ～主体性を育む授業デザイン～（1年次）		
研究 主題 設定 の 理 由	<p>本校は、複式学級・少人数・小中併設校という特色を生かし、3年間にわたり総合的な学習を中心に9年間を見通したカリキュラム・マネジメントの充実を図ってきた。昨年度は、子どもが自分の学びを表現したり、地域と協働したりする姿が増加するなど、主体的に学ぶ姿が着実に育ちつつある。</p> <p>一方で、複式・少人数という環境は個別最適な学びを実現しやすい反面、学びが固定化しやすいこと、多様な考えに触れる機会が限定されること、学習の進め方を自ら調整しながら学ぶ力が育ちにくいことなどの課題も明らかになった。これらの課題の解決は、学習指導要領が重視する「主体的・対話的で深い学び」の実現において重要であり、次期学習指導要領ワーキンググループにおいても、学習者が自ら学習過程を構築しながら学ぶ「主体性」の育成が中心的なテーマとして位置づけられている。</p> <p>以上を踏まえ、令和8年度の研究では、これまでの「カリキュラム・マネジメントの整備」から一歩進め、子どもが自ら学びを創り出し、主体的に学習過程を組み立てながら学ぶ力を育成するための『学び方そのものを育てる授業改善』を研究の中心に据えることとした。</p> <p>「自ら学び方を選択する」とは、文部科学省が示す主体的な学びの概念に基づき、課題の発見、目標設定、学習方法の選択、対話・協働による学びの深化、振り返りと次の学びへの活用といった一連の学習プロセスを、学習者自身が主体的に構築していく姿を指す。</p> <p>「学びをつなぐ」とは、昨年度までと同様に、各教科で培った学びを総合的な学習で発揮し、社会で通用する力へとつなげていくことを意味している。</p> <p>また「主体性」とは、学習者が目標達成に向けて自らの思考・行動・感情を調整しながら学習を進める力であり、学習指導要領における「主体的に学習に取り組む態度」の基盤となる。次期学習指導要領においても、育成すべき重要な資質・能力として重視されている。</p> <p>本研究では、特に学び方を選択する力【学び方の自己選択】と、主体的に学びを振り返り次に生かす力【リフレクション】の育成に力を入れる。授業では、児童生徒が自らの学習活動を予見（見通し・目標設定）→遂行（方法の選択・調整）→省察（振り返り・改善）する場面を意図的に設定し、主体的に学ぶ姿を育てていく。</p> <p>さらに、育てたい非認知能力である「自分を高める力」「多様性を認める力」「目標を持ち、挑戦する力」について教職員で共通認識をもち、子どもたちの成長を見取る力を高めていく。</p>		
研究 の 目 標	<p>学校教育目標『郷土「山寺」を愛し、社会に役立つ人間の育成』</p> <p>重点目標 「考える子ども」「助け合う子ども」「たくましい子ども」</p> <p>育成する力「自分と向き合う力」「多様性を認める力」「目標に向かって挑戦する力」</p> <p>日々の授業を通して、子どもが自ら学び続けるための「学び方」を身に付けることをめざす。</p>		
研究 の 仮 説	<p>仮説1 学び方のスキルを明確にし、授業の中で意図的に育成すれば、子どもは自ら学びを調整し、主体的に学びに向かうようになる。【学び方の自己選択】</p> <p>仮説2 自分の学び方や学びに向かう姿勢を適切に評価する力を育成すれば、子ども達は他の様々な活動においても自らの思考・行動・感情を調整し、自分に合った生き方ができるようになる。【リフレクション】</p>		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究の内容</p>	<p>(1) 子どもの姿の共有と「学び方」の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①育てたい非認知能力を踏まえた目指す子どもの姿を共通理解する</li> <li>②学び方の実態を語り合い、育てたい学習スキルを共通理解する (目標設定・情報収集・対話・協働・表現・振り返り)</li> <li>③小中連携による学び方の継続性の確保</li> </ul> <p>(2) 学び方を育てる授業デザインの検証【学び方の自己選択】と【リフレクション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業改善[学習課題のデザイン]</li> <li>②子どもが主体的に学びに向かう教室環境づくり (ICT 活用含) [学習課題のデザイン]</li> <li>③子どもの主体性を尊重しながら学びをつくる授業改善[学習のファシリテート]</li> <li>④子どもが自己評価、自己調整を適切に行うための工夫[リフレクション]</li> </ul> <p>(3) 地域探究を通した学びの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学級カリキュラム・マネジメントによる学びの系統化</li> <li>②小学校：1 日生活総合 DAY・中学校：Yamadera Welcoming Tour</li> <li>③地域の方との協働による学びの深化</li> <li>④実践を振り返り、学び方の改善につなげる</li> </ul>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学び方の自己選択</p>																					
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究の方法 (R8年度)</p>	<p>(1) 子どもの姿の共有と「学び方」の明確化</p> <p>①小中それぞれに設定した非認知能力の指標をもとにリフレクションを行う。月初めの週を「リフレクションウィーク」とし、児童生徒が自分自身について振り返る時間を設定する。発達段階に合わせて作成・実施し、客観的に振り返る力を付ける。(キャリアパスポートに入れ、成長の足跡を残す。)</p> <p>(2) 学び方を育てる授業デザインの検証【学び方の自己選択】と【リフレクション】</p> <p>今年度は②[学習環境のデザイン]と④[リフレクション]に重点を置いて研究を進める。年間を通して、山形大学の森田智幸准教授にご指導をいただく。また、職員会議において実践紹介を行ったり互いの授業を参観し合う「授業力ブラッシュアップ大作戦」を行ったりして、組織としてよりよい授業づくりを推進できる風土を醸成する。</p> <p>(3) 地域探究を通した学びの実践</p> <p>地域で活動し、大人と関わる時間や探究活動を経て児童生徒の力を発揮する場面を確保する。また、既習事項との関連を考えながら計画を立てさせたり振り返って関連に気づかせたりする場面を意識的に設定する。また、年間を通して学習の課程がわかる掲示を行う。</p>																						
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究の計画</p>	<p>3年計画 1年次：[学習環境のデザイン]と[リフレクション]に重点を置いて研究 2年次：[学習課題のデザイン]と[リフレクション]に重点を置いて研究 3年次：[学習のファシリテート]と1、2年次の課題に重点を置いて研究</p> <p>↓1年次の年間計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">時期</th> <th style="width: 35%;">主なテーマ</th> <th style="width: 50%;">取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4～5月</td> <td>研究の基盤づくり</td> <td>校内研① (研究主題共有) / 実態調査</td> </tr> <tr> <td>6～7月</td> <td>授業改善のスタート</td> <td>ICT 活用/校内研② (授業参観強化週間) (学び方の授業デザインの検証)</td> </tr> <tr> <td>8～9月</td> <td>探究準備・学び方の実践</td> <td>プロセス指導/校外研修</td> </tr> <tr> <td>10～11月</td> <td>探究活動の実施</td> <td>(生活総合 DAY・Welcoming Tour) 校内研③ (村山教育事務所計画訪問)</td> </tr> <tr> <td>12～1月</td> <td>評価の在り方の検討</td> <td>自己評価改善/見取り研修</td> </tr> <tr> <td>2～3月</td> <td>成果まとめ</td> <td>成果整理/変容分析/次年度課題/紀要作成</td> </tr> </tbody> </table>		時期	主なテーマ	取組内容	4～5月	研究の基盤づくり	校内研① (研究主題共有) / 実態調査	6～7月	授業改善のスタート	ICT 活用/校内研② (授業参観強化週間) (学び方の授業デザインの検証)	8～9月	探究準備・学び方の実践	プロセス指導/校外研修	10～11月	探究活動の実施	(生活総合 DAY・Welcoming Tour) 校内研③ (村山教育事務所計画訪問)	12～1月	評価の在り方の検討	自己評価改善/見取り研修	2～3月	成果まとめ	成果整理/変容分析/次年度課題/紀要作成
時期	主なテーマ	取組内容																					
4～5月	研究の基盤づくり	校内研① (研究主題共有) / 実態調査																					
6～7月	授業改善のスタート	ICT 活用/校内研② (授業参観強化週間) (学び方の授業デザインの検証)																					
8～9月	探究準備・学び方の実践	プロセス指導/校外研修																					
10～11月	探究活動の実施	(生活総合 DAY・Welcoming Tour) 校内研③ (村山教育事務所計画訪問)																					
12～1月	評価の在り方の検討	自己評価改善/見取り研修																					
2～3月	成果まとめ	成果整理/変容分析/次年度課題/紀要作成																					